

令和8年度 校内研修計画

(1) 校内研究計画

① 研究主題

主体的・対話的に学びを深め合う児童の育成
～「分かる」「できる」喜びを共に味わう授業づくりと取組の工夫～

② 主題設定の理由

ア 今日の教育的課題から

学習指導要領の総則の中で、児童生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図ることについて示されている。しかし、基礎的・基本的な知識・技能の習得が重要であることは言うまでもないが、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力等こそ、子供を取り巻く環境を背景とした差が生まれやすい能力であるとの指摘もある。そこで、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開していくことによって、学校教育が個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育んでいくことが求められている。

また、近年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休業の長期化により、多様な子供一人一人が自立した学習者として学び続けていけるようになってきているか、という点が改めて焦点化された。そこで、これからの学校教育においては、子供が ICT も活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、「個に応じた指導」を充実することが必要であるとされる。

これら時代の要請を受け、学校に求められてきているものは、一人一人の児童が自分のよさや可能性をとらえながらも、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な価値観をもつ人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓く「持続可能な社会の担い手」を育てることであると考え。言い換えれば、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって自らを成長させるような、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組が喫緊の課題として求められている。

以上のことから、他者の思いや考えを尊重しながら、自信を持って自己の思いや考えを伝え、主体的に学びを深めていく児童を育成する指導の在り方の探究は、教育の今日課題の解決のために適しているといえる。

イ 本校の教育目標から

本校は、学校教育目標を「ふるさとに、笑顔広げる龍野っ子の育成～子どもたちの可能性と未来をつくる学校づくり～」とし、「健康で元気にチャレンジする子供」「自他を認め合い、励まし合う子供」「自分の学びに自信を持つ子供」を目指す児童像として掲げている。この教育目標を実現するためには、「児童が主体的・対話的に学びを深め合う」指導法の探究は必要不可欠なものであり、本研究は、本校の教育目標の実現に向け、欠かせないものであると考える。

ウ 児童の実態から

令和 5 年度の熊本県学力・学習状況調査の結果から、特に算数の落ち込みが顕著な状況となっていた。また、基礎的・基本的な知識及び技能の習得ができていない状況も見られ、学習意欲の低下や学習習慣が定着していない児童もいることが窺えた。そのため、令和 6 年度から児童が主体的・対話的に深く学び合う児童の育成を目指し、算数科の授業づくりを中心に研究に取り組んできた。

令和 7 年度の熊本県学力・学習状況調査の結果から「学習意欲」や「学習習慣」、「対話・話し合い」の項目での児童の意識の向上が見られ、算数科の学力の向上が見られた。そこで、今年度は、昨年度までの研究を生かし、他教科にまで広げることを目指す。

③ 研究主題について

○「主体的・対話的に学びを深め合う児童の育成」について

「**主体的な学び**」とは、児童が学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげること。

「**対話的な学び**」とは、児童同士が認め、励まし、助け合って活動し、教職員や地域の人との対話や本、タブレットなどを手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めること。

「**深い学び**」とは、習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連つけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かうこと。

これら 3 つの視点を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けられる児童の育成を目指す。

④ 研究の仮説について

【**仮説**】子どもの学ぶ意欲を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることを徹底し、「主体的な学び」の基盤づくりを進めるための『龍野っ子授業づくり 10 ステップ』を生かした授業実践や学校総体の取組の工夫を行えば、「分かる」「できる」喜びを共に味わい、主体的・対話的に学びを深め合う児童を育成することができるであろう。

⑤ 仮説に対する手立て

手立て1	「分かる」「できる」喜びを共に味わう算数科の授業づくりの工夫 ○「わくわく」が連続し、「学びを生かそう」とする単元デザインの工夫 ○「龍野っ子授業作りの10ステップ」を生かした授業づくりの工夫 ・「なぜ」「おそらく」が生まれる導入の工夫 ・「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫 ・「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれる終末の工夫
手立て2	子供と教師のための効果的な学力向上サイクルの確立の工夫 ○熊本県・学力学習状況調査の結果を基にした実態把握・分析を生かした目標及び授業（単元）デザイン ○龍野っ子勉強名人アンケート（児童・教師版）を生かした授業改善
手立て3	子供の学ぶ意欲を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることを徹底する学校総体の取り組みの工夫 ○自学ノートコンクールの実施 ○家庭学習週間の実施 ○漢字・計算大会の実施 ○校内の支援体制の整備 ○ぐんぐんタイムの実施

⑥ 研究の組織

部会	メンバー	具体的内容
研究推進委員会	校長、教頭、教務主任、研究主任、各部長リーダー	・研究の方向性や評価など、研究を行う上での課題解決を目的とし、必要に応じて研究主任が開催する。
授業研究部 ※○はリーダー	低学年部 中学年部 高学年部	・授業研究会の運営（付箋紙、授業メモ等の準備） ・必要に応じた事前研の実施、授業改善に向けて ・『龍野っ子「分かる」「できる」喜びを共に味わう授業づくり10ステップ』を生かした授業改善
学力向上部	低学年部 中学年部 高学年部	○自学ノートコンクールの実施 ○家庭学習週間の実施 ○漢字・計算大会の実施 ○ぐんぐんタイムの実施
調査環境部	低学年部 中学年部 高学年部	・熊本県・学力学習状況調査の結果を基にした実態把握・分析 ・龍野っ子勉強名人アンケート（児童・教師版）の実施・分析 ・校内の支援体制の整備 ・学びの足跡を示す掲示の工夫

⑦ 研究の大まかな流れ

学期	研究の主な内容
1 学期	・「研究の基本構想」の共通理解 ・専門部会からの提案 ・研究授業の実施 ・『龍野っ子授業づくり10ステップ』を生かした授業実践 ・アンケート
2 学期	・熊本県学力・学習状況調査の結果分析・活用 ・学校総体の取り組みの充実 ・授業改善
3 学期	・評価と改善 ・学校論文の作成 他

⑧ 研究の実証方法について

- ① 児童及び教師アンケートの実施
 - ・学期毎に行い、変容を見取る。
- ② 授業改善に向けての取組
 - ・研究授業及び講師招聘
- ③ 学力・学習状況の変容の見取り
 - ・熊本県・学力学習状況調査の結果を基にした分析・活用

(2) 研究の全体構想

